

西穂高岳（独標・2701m）

山行日	2020年8月26～27日
メンバー	弥生班2名+会員外3名、計5名
コース	岩出図書館1時出発→新穂高温泉駅7：10 →ロープウェイ8時→登山開始8：35→ 西穂山荘9：40→丸山10：20→ 独標・昼食11：30→独標発12：00→ 西穂山荘13：15→奥飛騨温泉郷旅館（泊）



新穂高温泉駅で8時出発のロープウェイを待っているところ



これから独標に向けて出発です



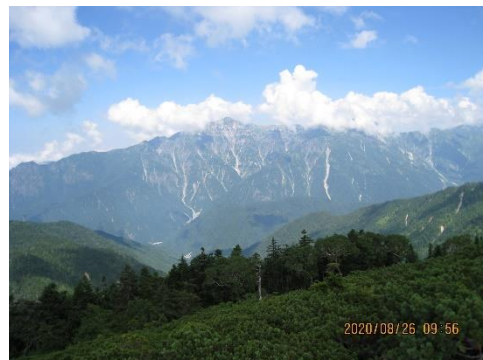
西穂山荘では平日でもあり人は少なかった。加えてコロナ渦で今年の山小屋は大変だと感じた。
京都から一人自家用車で車中泊し、やって来たというご高齢の方と知り合いになり写真を撮って頂いた。

夏場の山行と言えばアルプスで毎年のように山小屋泊で2山行以上はしていました。しかしながら今年はコロナの影響で断念しようと考えていたところ、山小屋を使わない山行をすれば良いと思い立ちました。つまり日帰り登山です。和歌山市からだアルプスは片道6～7時間程度かかるので日帰りはちょっとキツイため下山後に旅館などを使って1泊して帰る方法です。これだと山小屋での三密状態を回避できる上、今の時期限定でゴーツーキャンペーンも利用できます。そのような事から可能な山をさがしました。折角なら麓に温泉旅館がある方がベターでした。

結果、選んだのは今回山行の西穂高岳です。今回は会員外の人もあるため往復共にロープウェイも使え、比較的安全な独標までとしました。往復で5時間程度のコースタイムです。麓には奥飛騨温泉郷もあり申し分ない選定でした。

ロープウェイの発着点である新穂高温泉駅には7時過ぎに到着。始発の8時に搭乗。平日の上にコロナの影響からか人は少ない方だと感じた。第1ロープウェイでは約4分。更に乗り継いで第2ロープウェイで約7分で西穂高口駅に。駅間の高低差約千mをこの時間で昇降します。標高2156mの西穂高口駅屋上には展望台が設けられていて、眼前には笠ヶ岳をはじめ北アルプスの大パノラマが一望。

余談ながら、この展望台には「山びこポスト」と名付けられ、通年集配可能なものとしては日本最高所にある郵便ポストがあるとのこと。



正面には笠ヶ岳の雄姿が



遥か先には目的の独標が…



眼下には西穂山荘、その先には焼岳が。山行はやはり晴天が一番である。



やっと目前に独標が…



独標で全員のショット。
後から登って来られた京都の人にまた撮って頂いた。



独標からの下山。登りは3点支持で。

独標で少し早い昼食を摂る。この昼食時のお茶代わりだと言って、下界から持ち上げてくれた全員分の冷えたノンアルコールビールが A 氏から配られる。値千金とはこのような状態の時の言葉だろうか？ 渴いた喉にはたまらなく美味しかった。クソ重たく荷物になる労力を考えると感謝！感謝！である。

休憩をしていると何人かのグループが頂上から降りてきた。聞けば奥穂から早朝やってきたとのこと。かのジャンダルムを越えてである。愚問ながら彼ら2組に「またこのコースを来たいですか？」と尋ねたところ「もう2度と来たくない！」と。答えが奇しくも一緒に返ってきたのには笑ってしまった。まあそれ程苦難なコースであることはこの独標に来ただけでも伺い知れた。

下山は登山道左下に見える上高地を見ながらである。赤い屋根は帝国ホテルである。梓川は水量が少ない。焼岳も少し煙を上げている。

この景色を見ていると、今年もアルプスに来れたことを実感。そして今日の晴天と健康に登ってこれた老体に感謝し西穂を後にする。

下山後は楽しみの温泉と飛騨牛料理の宿が待っていると思うと足が軽くなった。

最後にこの山行での宿泊先の手配とゴーツーキャンペーン手続き等を担当して下さった K さん、ロープウェイの割引チケット取得をして下さった F さん、配車の A さんに感謝します。